

令和2年度岐阜県外国人患者受入体制整備協議会

－ 議 事 概 要 －

1 日 時 令和3年3月18日（木） 15：30 ～ 16：30

2 場 所 県庁労働委員会室（Web会議）

3 出席者

区分	所属	役職	氏名	備考
医療関係	岐阜県医師会	常務理事	平野 良尚	
	岐阜県歯科医師会	常務理事	西垣 公順	
	岐阜県病院協会	専務理事・事務局長	澤井 和子	
	岐阜県薬剤師会	副会長	棚瀬 友啓	
	岐阜県看護協会	専務理事	細井 智子	
JMIP 認証病院	木沢記念病院	地域連携部長	坂下 重吾	
医療機関	高山赤十字病院	事務部長	宇津宮 清和	
救急関係	岐阜市消防本部	救急課長	長崎 信隆	
関係機関	岐阜県国際交流センター	局長補佐	春成 浩治	
	医療通訳ボランティア		加藤エジナユキコ	
行政	岐阜市国際課	課長（国際交流推進審議監）	伊藤 恵理	
	大垣市まちづくり推進課	課長	中川 智臣	欠席
	可児市人づくり課	課長	桜井 孝治	

4 議事等

- 1 外国人患者受入体制整備にかかる県及び国の取組みについて
- 2 関係機関における外国人患者受入れにかかる現状及び課題について（情報共有）

5 配布資料

資料1 岐阜県外国人患者受入体制整備協議会 設置要綱

資料2 県及び国の主な取組みについて

別紙1 外国人患者を受け入れる拠点的な医療機関

別紙2 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（医療分）実施要綱（抜粋）

別紙3 「令和元年度県内医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査」結果の概要

（参考資料1）新型コロナウイルス感染症の外国人患者に係る医療提供体制構築の主要支援策等（厚労省）

（参考資料2）新型コロナウイルス緊急対策（3月8日～4月上旬）（抜粋）

（参考資料3）令和元年度医療機関における外国人患者の受入に係る実態調査について（概要版）（厚労省）

6 委員からの主な意見

(未収金)

- ・未収金が課題。分割払いをしているうちに、途中から払わなくなるケースが多い。
- ・2年前の医療費を払っていない人もいる。
- ・小さな医療機関は、クレジットカードに対応する機器の導入が進んでいない点が課題。インバウンドは現金支払いではないため、対応が必要。

(通訳)

- ・通訳のニーズが高く、通訳を待つ時間が増えている。
- ・現在、73名の医療通訳ボランティアの登録があり、15病院が派遣利用の登録をしている。
- ・医療通訳ボランティアには、日常会話だけでなく専門知識や高い能力が求められるため、人材確保が課題。人材の育成機関が必要。
- ・平日対応できる医療通訳ボランティアの確保が課題。
- ・コロナにより、医療通訳ボランティアの派遣が利用できなくなった。

(翻訳ツール等)

- ・グーグル翻訳やポケトークを使用。
- ・救急搬送時に、3者間通話や翻訳アプリを使用。

(医療安全等)

- ・通訳や翻訳ツールでは、誤訳や細かいニュアンスの違いが生じる可能性もあり、医療安全の確保が課題。
- ・言った言わないというトラブルが生じる可能性もあり、訴訟対策も課題。

(その他)

- ・高山日赤では外国人観光客の患者が多く、木沢記念病院では就労している患者が多い。
- ・フィリピンやブラジルの方は、コミュニティを持っておりグループで動くことが多く、その中に1人か2人日本語を話せる人がいる。
- ・最近国籍が多様化しているため、掲示物の多言語化をどこまで対応するかが課題。
- ・宗教上の理由による食事制限に対応するのは手間がかかる。
- ・Wi-Fiの整備にも補助金が利用できるよう要件を緩和してほしい。
- ・コロナのリバウンドを防ぐために啓発を実施している。